



評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)杉江幸治様貸施設新築工事	階数	地上6F
建設地	名古屋市中区富士見町614-2の一部、614-3、614-4、614-5	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、市街化区域、防火地域	平均居住人員	90 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2021年5月 予定	評価の実施日	2021年4月5日
敷地面積	771 m ²	作成者	
建築面積	503 m ²	確認日	2021年4月5日
延床面積	2,647 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.0 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C:★	☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30% 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.0
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.9	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.6	LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
老人ホームなので入居者がストレスなく快適に生活できるよう、各居室の面積を広く設計している。植栽を設けて良好な景観を形成しているだけでなく、周囲のまちなみに馴染むような色合いになっている。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
居室の昼光率は1.25%以上と高く、外部からの光を多く取り入れている。喫煙所を設計することで非喫煙者に煙が曝されないように対策が取られている。	個室10m2/床以上、多床室8m2/床以上あり入居者が快適に生活できるように各居室が広い設計になっている。外部階段にはメッキ処理を行うなど維持管理にも配慮している。	植栽を設け、良好な景観の形成に努めている。また、生態系に悪影響を及ぼす外来種を使用していない。周辺の建物と色合いが似ていてまちなみにバランスよく調和されている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI=0.86、BEI=0.94となっており環境負荷の抑制に努めている。	雨水や雑排水の利用は行っていない。	十分な数の駐車場・駐輪場を設置している。駐車場から厨房は距離が近く、搬入が容易となっている。広告物照明を設置していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)杉江幸治様貸施設新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.0
LR1	エネルギー	2.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.0



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。